あゆみ
青梅市立河辺小学校　学校便り
No.658　令和５年１月１０日
青梅市立河辺小学校　校長　関谷　望

「楽しい授業」を目指して　～校内研究の取り組み～

校　長　　関谷　　望

あけましておめでとうございます。今年は行動制限等のない冬休みでしたので、久しぶりに郷里の方とお会いになった方や旅行に出かけられた方もいらっしゃるかと思います。子供たちにとっても、冬休みが良いリフレッシュや英気を養う機会となっていることでしょう。１年のスタートでもあり、年度の締めくくりでもある３学期を「充実の時」としていきたいと思います。

学校は「学び舎」ですので、最も大切にすべきものは「授業」です。学校では毎年「研究テーマ」を決めて校内研究に取り組み、授業改善の共通実践を行っています。今年度の河辺小学校の研究テーマは「楽しい国語の授業づくり」です。

現在の小学校の教育課程は２０２０年度から本格実施された「学習指導要領」に則って行われています。そこで提唱されたのが「主体的・対話的で深い学び」という考え方です。これを解説すると大変難しく、長くなってしまうので、端的に言ってしまうと、「子供たちが自ら課題をつかみ、粘り強く取り組む」「対話を通して思考を広げたり深めたりできる」「学びをこれまでの知識や経験と結び付けることができる」授業づくりを目指すということです。

河辺小学校では、これまでも平成 28・29 年度青梅市研究指定校として設定した「河辺小授業スタイル」という問題解決型の授業スタイルを、共通理解・実践することを継続し、「教え込む授業」ではなく、「児童が自ら考え、学ぶ授業」「友達と交流しながら考えを広げ、深める授業」を目指して、主に算数を中心に研究に取り組んできていました。教員や子供たちの頑張りや、河辺ドリルやステップアップクラスなどの取り組み、保護者の皆様のご理解とご協力により、学力の定着に向上がみられています。

しかし、様々なデータを分析してみると、河辺小の子供たちは全体として、算数や理科に比べて、国語や社会といった教科に苦手意識があったり、学ぶ楽しさを感じることができていなかったりする子が多いということがわかってきました。（算数を中心とした対策の効果が出て、それと比較すると…という意味でもありますが）

そこで、今年度は国語科、特に物語教材の授業に焦点を当て、子供が主体的に取り組む楽しい授業を目指すこととしました。この「楽しい」は、ただ単に楽しいということではなく、「学ぶ楽しさ（＝興味深い、面白い）」という意味です。

子供が学ぶ楽しさを味わえよう、工夫を取り入れた授業を検討し、その実践として、これまで４年（６月）６年（９月）１年（１０月）３年（１１月）と４回の研究授業を実施しました。それぞれ東京都小学校国語研究会の会長、副会長など、優れた実践経験の豊富な講師の先生をお招きしてご指導をいただき、さらなる改善に努めています。今後、２月に２年、５年での研究授業を実施予定です。

学校は子供たちにとって「学び舎」ですが、私たち教師にとっても、よりより授業・教育活動を目指していく、「『学び』を求められる場」です。今年も、国語だけではなく、子供が「その教科のもつ『面白さ』を学ぶ楽しさ」を味わえる授業を目指し、全校で共通理解を図りながら、努めてまいります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。